

有機農業技術のつぼ

作物名	かぼちゃ
対応技術の項目	除草技術・その他
	生物的防除法
	リビングマルチ（エン麦）の導入

《情報収集先の経営概要等》

南幌町 渡辺 信光 経験年数 38年（うち有機年数10年）

経営耕地面積 3.9ha（全面有機）

ばれいしょ	1.0ha
大豆	0.6ha
かぼちゃ	2.0ha
アスパラガス（立茎栽培）	0.3ha

労働力 家族3人

有機JAS認定の取得状況 平成20年取得

問題点

日焼け果の発生に悩まされていた

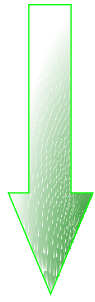
- 葉面積が不足したり、着果節位付近の葉がうどんこ病により枯れ上がると果実に対する葉の遮光効果が低減し、日焼け果の発生が増加した。

対応

リビングマルチとしてエン麦を導入した

つぼ

- 分施時ころ（7月上旬）にエン麦（品種名：スワン）をリビングマルチとしては種した。
マルチ端からつるの伸長方向へ2mの範囲に、背負いの肥料散布機を用いては種した。は種量は5～6kg/10a。
- ※ 遮光効果による日焼け果の発生防止とともに雑草の発生抑制効果も期待した。
- は種後は、ロータリーで肥料と一緒に土壌混和した。



※ **対応技術活用上の注意点**

- 分施と同時に土壌混和するため、は種時期を大幅にずらすことはできないが、可能な限り適正な土壌水分時には種する。
- エン麦がネズミのすみかになることがあり、発生源となるほ場周りの除草が重要となる。

成 果

日焼け果の発生はほぼなくなった

- 日焼け果発生率 導入前 20~30% → 導入後 0%
(は種時の土壌水分が適正で、出芽率が良好な場合)

※ 地力増進や雑草発生抑止の安定化のため、今後は、マメ科緑肥の混播も検討する必要がある。



リビングマルチとしてのエン麦